

総合戦略の構成と各団体の関係性のイメージ

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会による事業の推進

【総合戦略の役割】

地域を挙げての
「まち・ひと・しごとの好循環」の
形成に向けた

- ①目的・目標の共有化
- ②施策・事業の明確化
- ③団体間の関係性の明確化

- ・具体的施策は、計画期間の中で実施するいくつかの具体的な事業により構成。
- ・具体的施策の進捗状況を検証するための指標（KPI）を設定。
- ・KPIは、いくつかの具体的な事業によるアウトカム指標又はアウトプット指標を設定。

- ・総合戦略に登載する具体的な事業は、協議会構成メンバーの中に明確な実施団体があるものとする。
- ・具体的事業を構成する各団体の個別事業は、「実施タイプ」と「支援タイプ」の2種類に区分。
- ・個別事業は、事業概要シート単位又はその中に記載するより詳細な事業の単位。

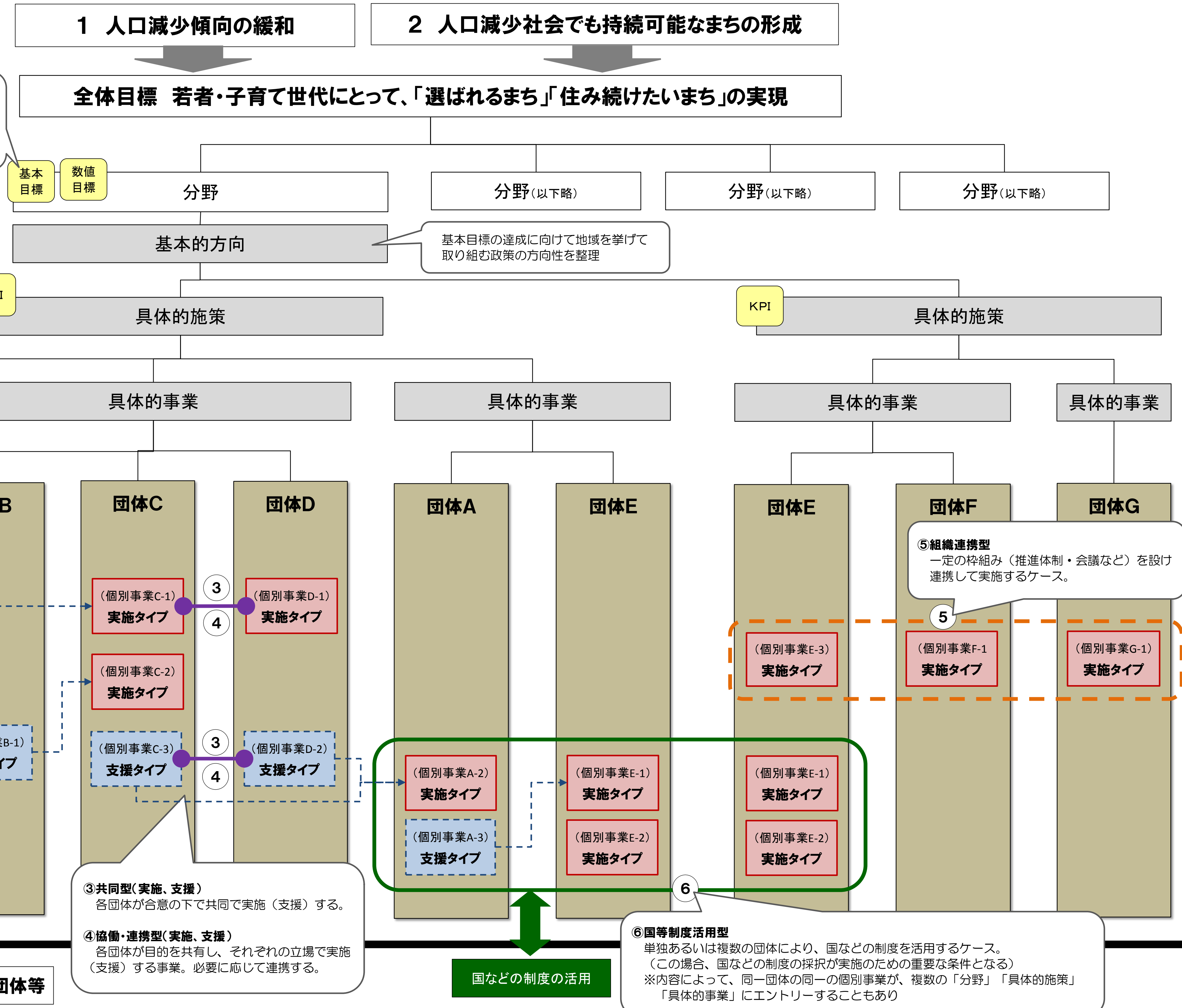
**（個別事業）
実施タイプ**

団体自らが事業の実施主体となる事業。
※自らの事業費で、直接的にソフト・ハードの事業を実施する
※必要に応じて支援を受けることも含む

**（個別事業）
支援タイプ**

協議会の構成団体または、協議会以外の団体で地方創生に資する事業を行う者への支援を行う事業。
※支援の種類の例
・経済的支援（事業費の補助や融資など）
・情報・技術的支援（情報提供や、専門家の紹介など）

分野ごとに基本目標（設定済）とアウトカム指標を設定



①単独実施型

②単独支援型

③共同型(実施、支援)
各団体が合意の下で共同で実施(支援)する。

④協働・連携型(実施、支援)
各団体が目的を共有し、それぞれの立場で実施(支援)する事業。必要に応じて連携する。

⑤組織連携型
一定の枠組み(推進体制・会議など)を設け連携して実施するケース。

⑥国等制度活用型
単独あるいは複数の団体により、国などの制度を活用するケース。
(この場合、国などの制度の採択が実施のための重要な条件となる)
※内容によって、同一団体の同一の個別事業が、複数の「分野」「具体的施策」「具体的事業」にエントリーすることもあり

国などの制度の活用